



噴火災害から、ふるさと再生へ

長崎県島原市安中地区まちづくり推進協議会

雲仙・普賢岳は長崎県南部の島原半島のほぼ中央に位置し、有史以後1668年、1792年、1990年と大規模な噴火を繰り返しています。

特に、1792(寛政4)年には溶岩を流出し、地震によって眉山が崩れ、崩落した土石が有明海に突入し大規模な津波が発生して、対岸の熊本県も襲い「島原大變肥後迷惑」と呼ばれる大災害(死者・行方不明者約1万5,000名)を引き起こしました。

1 198年ぶりの大規模噴火

平成2年11月には198年ぶりに噴火が再開し、平成8年5月までの5年7か月もの長期にわたって噴火活動は継続しました。その間火砕流によって44名もの尊い人命が奪われ、火砕流・土石流によって多くの家屋、田畑、山林、公共施設などが壊滅的被害を受け、地域生活や経済活動に多大な被害が発生しました。

2 住民が中心となって再建

私達が活動を始めたきっかけは、平成2年からの雲仙・普賢岳の噴火により、私の



火砕流



土石流

住んでいた安中地区は、度重なる火砕流・土石流により壊滅的被害を受け、住民の間では「もう地元での再建は無理だ」という声が上がっていました。このような状況の中、安中地区の嵩上げ事業を推進するために、平成5年に団体の前身である「安中三角地帯嵩上げ推進協議会」を発足させ、住民が中心となった活動を始めました。

安中三角地帯の面積は、約93ヘクタール324世帯が生活をしていました。嵩上げの平均の高さは6メートルで、高い所では10メートルにもなります。嵩上げに要した土砂の量は330万立方メートルで、この工事にかかった費用は約91億円です。このお金は、水無川に流れ込んだ土石流の土砂の土捨て場として、三角地帯を利用してもらうことにより土捨て料として支払いを受けました。そしてこの中からは、被害を受けずに残った家屋への補償費、排水用の水路の工事費なども支払われました。

嵩上げ工事の起工式が行われたのは平成7年6月11日で、地元からこの構想が提案



嵩上げ事業

されてから3年の歳月を要しました。この前例のない画期的な工事には5年かかり、平成12年3月にすべての工事が終わりました。甚大な被害を被った安中三角地帯は、8年という時間を費やし、更地となって再出発することになりました。

3 「安中・夢計画」をまとめる

安中三角地帯嵩上事業がスタートした後、私達の協議会は、平成8年に嵩上協議会、安中地区連絡協議会役員で、「安中地区まちづくり委員会」に組織を変え、地元の要望も聞いた上で、地域独自の復興計画「安中・夢計画」をまとめました。

「安中・夢計画」取りまとめ後、嵩上げ事業と同様に住民が主体となって、われん川の再生やふるさとの森づくり等に取り組みました。本格的にまちづくりに取り組むために、平成11年に「安中地区まちづくり推進協議会」に組織を再編し、活動拠点を一本化しました。

4 主な活動として

①(被災地相互ネットワーク)

火山地域の市民団体相互支援ネットワーク(火山市民ネット)の一員として、有珠山

(北海道)、三宅島(東京都)、新燃岳(宮崎県)といった火山災害で被災した地域住民との交流を毎年開催しています。

②(安中梅林の復活)

噴火災害や地域の嵩上により安中梅林が消滅してしまいましたので、平成12年度より安中梅林の復活を目指し、地元と島原市立第五小学校卒業生により梅林の植樹を行い、平成22年度に目標の1,000本に達し、現在は婦人会・PTA・五小の生徒とにより梅の実の加工と梅林の維持管理を行っています。

③(防災塾)

火山災害から20年を迎え当時の記憶が風化しつつあると感じるようになり、子供達に将来、又この地域におこるであろう火山噴火災害を伝えなければとの思いで、九州大学地震火山観測研究センター、国土交通省雲仙復興事務所、島原市にお願ひし安中防災塾を立上げ活動を行っています。



防災塾

近年、日本各地で火山・地震・風水害等の自然災害が数多く発生し、被害が拡大しています。災害の情報をいち早くキャッチし「自分の命は自分で守る」行動を行ってほしいと思います。